

当時では最新鋭の 金銅製馬具が発見された古墳

菊塚古墳は市街地の西部、大池の北側にある6世紀中頃（古墳時代後期）の前方後円墳です。王墓山古墳から直線で約400mの距離にあります。市教育委員会の調査によって周溝と横穴式石室が発見され、石室内からは王墓山古墳と同様の石屋形いしやかたが見つかりました。石屋形とは、石室内をさらに部屋で囲うもので、肥後地方（熊本県）などに見られる古墳の特徴といわれています。

副葬品としては、刀ややじりなどの武器、大量の玉類、須恵器や土師器はじきなどが見つかりました。特に器台付装飾壺には、雄と雌の鹿



発掘調査で見つかった横穴式石室

の像が乗っており、今にも動き出しそうなほど写実的に作られています。さらに、王墓山古墳と同様に豪華な金銅製馬具も発見されました。

菊塚古墳の築造年代は王墓山古墳の次世代の頃で、丸亀平野一帯を治めていた、身分の高い人の墓と考えられます。後円部墳頂には、菊主神社がまつられています。



出土した
器台付装飾壺



- 普通寺町1595-1
- 王墓山古墳から車で約3分。
大池の土手東側の道を約100m
下ったところ。